

津波から身を守るために

津波の特徴

早くて力が大きい

深海での津波の速さはジェット機なみです。沿岸部でも短距離選手なみのスピードがあります。また、くるぶし程度の波でも力が大きく、立っていることができません。

繰り返しやってくる

津波は繰り返しておそってきます。警報、注意報が解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。東南海・南海地震では、約6時間にわたって大きな津波が繰り返すと予測されています。

引き波があるとは限らない

津波が来る前には、引き波があると言われることがありますが、前触れなく津波が来ることもあります。



地震発生後、場所によってはあっという間に津波がやってくる場合があります。例えば和歌山県の串本町では、東南海・南海地震発生後、数分で7メートルもの津波に襲われるといわれています。

避難のポイント

津波から身を守るためには、少しでも早く、高いところに避難しましょう。

地震の揺れの程度で自己判断しない

揺れが小さくても津波が起きることがあります。海岸や河川敷などでは、小さい揺れであってもまずは避難しましょう。

「遠く」より「高く」に

既に浸水が始まってしまった場合は一刻を争います。「遠く」よりも「高い」場所に避難しましょう。近くのマンションやビルの3階以上に逃げ込むようにしましょう。

避難に車は使わない

車で避難することはやめましょう。平成5年(1993年)の北海道南西沖地震では、奥尻島青苗で避難する車で狭い道路が渋滞しました。そのため津波に飲み込まれ、多くの方が命を落としました。

